

事例8 思考展開シート

(1) 疾病や薬の副作用等の影響は考えられますか？

- ・多発性硬化症の後遺症により視野障害がある。
- ・不安定膀胱。

【質問】

認知症と疾病の関係はありますか？いつごろから認知症が認められるようになりましたか？

【回答】

・認知症と疾病の関係があるのかわかりません。認知症と認められたのがいつ頃かもはっきりとは分かりません。

(2) 身体的痛み、便秘・不眠・空腹等による苦痛の影響は考えられますか？

- ・以前の骨折部分の痛みがまだ残っている。
- ・足が尖足の為、車いすのフットレストに足が付かず不安定。
- ・不安定膀胱の為、常に尿意がある。

【質問】

痛みや障害と不安の関係はありますか？

【回答】

・足がフットレストにつかずに不安定であり、また視覚障害があるため不安を感じるのではないかと思います。また、常に尿意があり解消されないため、漏らしてしまうという不安が起きていると思います。

(3) 悲しみ・怒り・寂しさ等の精神的苦痛、また本人の性格等の影響は考えられますか？

- ・依存心が強く、誰かに傍にいて欲しいが、職員がずっと傍にいる事はできない。

【質問】

日常生活上で本人にできることは何ですか？

【回答】

・出来る限り、本人の話を聞く時間を作ることでと答えます。

(4) 音・光・味・臭い・寒暖等感覚的な苦痛を与える刺激の影響は考えられますか？

- ・聴力は低下していない為、周りの音がよく聞こえ、ざわざわしている様子を常に感じてしまう。
- ・広く大勢いるホールで過ごすため、視野障害により視野が定まらない状態で、入れ替わり立ち替わり人が動いている状態が見えてしまう。

【質問】

静かなところでは様子はどうですか？

【回答】

・静かなところでも訴えはありますが、ホールにいるときにはない落ち着き、うとうととする時間も少しはありました。

本人の言葉や状態
ワークシートC- に書いた、本人の言葉や行動を書き出し、関連のありそうな情報を整理してみましょう。

- ・「お茶。」「おしっこ。」「助けてください。」など広いホールに響き渡るくらい大きな声で叫ぶ。
- ・左右の足を上下に動かし、不安そうに叫ぶ。
- ・訴えが解消されない場合は、さらに声が大きくなる。

(5) 家族・介護者など周囲からの過剰、あるいは少なすぎる関わりの影響は考えられますか？

- ・本人の訴えがあるとき全てには、家族も介護者も対応できていない。本人にとっては関わりが少なすぎるかもしれない。

【質問】

不安の原因について、家族の方はどのように思っていますか？

【回答】

・不安の原因は病気によるものだと家族の方は感じているようです。

(6) 障害程度・能力の発揮に対して、住まい・器具・物品等物的環境による影響は考えられますか？

【質問】

車椅子の不安定さについて何か対策はされていますか？

【回答】

・右への傾きが多いため、クッションを使うなどしています。家族が手作りでクッションを用意し、肘掛けにクッションがつくようになりました。また、足が車椅子のフットレストにつかないため、足置きを使用することもありましたが、あまり効果が見られず、現在は行っていません。

(7) 要望・障害程度・能力の発揮と、アクティビティー(活動)とのズレによる影響は考えられますか？

【質問】

本人が好む活動などはありますか？
(やはり障害の影響から何事にも興味がないですか？)

【回答】

・訴えが頻繁なため、集中して参加できるアクティビティは今のところ見つけられていません。美空ひばりが好きということでしたが、美空ひばりの曲を聴いていても、継続して聞くことは出来ませんでした。

(8) 生活歴・価値観等に基づいた暮らし方と、現状とのズレによる影響は考えられますか？